

ふるさとおもしろ統計学

成長続けるサービス業 ～「平成8年事業所・企業統計調査」より～

7月に入り、大学生などの就職活動もいよいよ本格的シーズンに差しかかっています。数年前の“超氷河期”などという言葉に代表されるように、最近は多くの産業において就職するのが困難といわれていますが、一方では、この状況下において着実に成長している産業もあります。その代表的産業が、いわゆるサービス業です。（図1）

「平成8年事業所・企業統計調査」をみますと、一口にサービス業といっても多くの業種が含まれていますが、そのうちの主なものを、サービス業全体に占める割合について全国と本県とで比べてみますと、図2が示すとおり本県のサービス業における特徴的なものとして、娯楽業、自動車整備業、学術研究機関の従業者数が高いことが見て取れます。ちなみに自動車整備業が多いことについては、「自動車保有車両数」（運輸省自動車交通局）によると、本県の人口千人あたりの保有自動車数は、平成8年度においては708.1台で、全都道府県中第5位と高くなっており、これと関連しているためと考えられます。

また、学術研究機関への従業者数は、“筑波研究学園都市”に代表されるように、本県の場合、他の都道府県に比べて国や民間の研究機関等が多く立地しているからだと思います。

しかしながら一方で、将来の成長産業といわれ

るソフトウェア業・情報処理サービス業などを含んだ情報サービス・調査業や、保育所や老人福祉事業などを含んだ社会保険・社会福祉業といった業種が、事業所数・従業者数ともに全国に比べて低い割合になっています。本県では、現在、情報サービス産業の育成・振興や、福祉サービス従事者の養成・確保などのための各種施策を行っており、今後の“情報化社会”“福祉社会”に向け、これらの業種の成長が期待されるところです。

今回取り上げた業種の他にも、発展と可能性をもった多くの業種があると思います。就職される皆さん、職業を選ぶ決め手として、数ある統計書を有効に利活用されてみてはいかがでしょうか。

図1 本県の従業者数（昭和53年＝100）

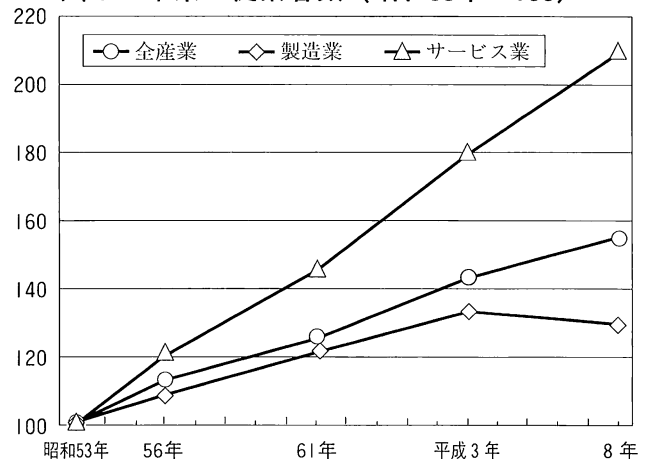
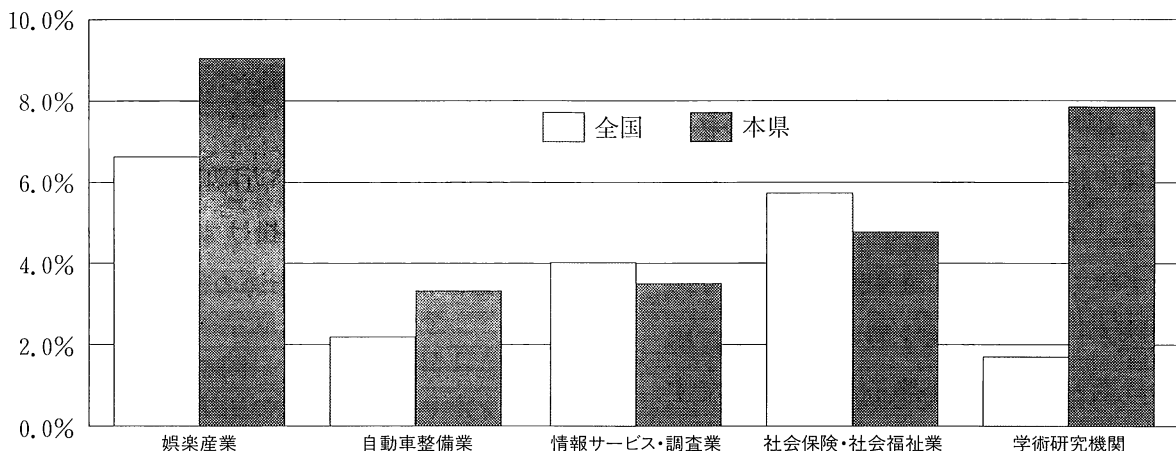


図2 サービス業全体に占める割合（従業者数）



※「ふるさとおもしろ統計学」は隔週金曜日、茨城新聞に掲載されています。

統計を担当して

五霞町企画課 主幹 山下 仁 司

この度、4月1日付をもって、企画課企画係に異動となり、統計を担当することとなりました。今回の異動は私にとって初めての異動であり、役場に就職して丸8年になりますが、その間、ずっと税務課で住民税を担当しておりました。8年も同じ仕事ばかりしていると、仕事上の年間スケジュール等が頭の中に完全に入ってしまう事もあり、毎年が同じ事の繰り返して、新しい仕事を覚えたり等といった苦勞もほとんどなく、マンネリ化してしまっていたため、早く異動したいと心の中で願っていた矢先の出来事でした。

その様な訳で、今年漸く念願の異動と相成ったのですが、いざ新しい仕事に就いてみると、現実にはそれ程甘くないという事を、なんとなく感じています。

まず、異動後の初仕事が、「統計調査員協議会総会」という、町の統計調査員の方々を招集して開催する会議でした。そこでまず驚いたのが、統計調査員の皆さんの年齢と職歴の長さでした。約半数の方が、私の生まれる以前から調査員として数々の調査に携っており、百戦練磨の強者ばかりといった面持ちの方が大勢おり、その存在感と威圧感たるや、初めて見聞きするものばかりの私にとっては想像を絶するものがあり、精神的にかなり応えました。「今後しばらくの間、私はこの方々と仕事をしていくんだなあ」と思うと、かなりの重圧と、漠然とした不安が胸を襲いましたが、総会は時間の経過と共に、無事終了となった訳ですが、私の中では、その重圧と不安は、益々増大し

ていく様に感じられ、前任の統計担当者に深い尊敬の念を抱くと共に、羨やましくも思いました。

その様な状況の中で、上司からこんな事を言われました。

「これからお前のやっていく仕事は、人に作業を依頼するのが仕事であって、今までも税務課で人に頭をさげてばかりだったんだから状況はあまり変わってない。さほど困ることもないだろう。」との一言です。言われた時はおかしくて笑ってしまっただけですが、よく考えてみると、全くその通りだと思います。

まだ統計調査を実際に経験した訳ではありませんが、この「統計」という仕事は、担当と調査員との間にある「人間関係」を大切にしていこうと心がけ、最も大事なことであり、それを疎かにすれば、結局は自分の身に帰って来るであろう事を深く考えさせられました。

これから、商工業実態基本調査が始まります。少し遅くなりましたが、調査員の方も、なんとか引き受けていただくことが出来ました。今後とも調査員の方と、コミュニケーションを密に計っていく事を心掛け、また、初心を忘れぬ様、努力していこうと思います。

また、県統計課、および近隣町村の皆様には質問等で何かとご迷惑をお掛けするかと思います。その節はよろしくご指導の程、お願いいたします。

【新着資料案内】【新着資料案内】

この資料は、平成10年6月中に行政情報センター・統計資料コーナーに到着した主なものです。ご利用ください。
行政情報センター 本庁舎地下1階 TEL 029-221-8111 (内線 2238・2239)

行政資料名	発行所(者)	行政資料名	発行所(者)
中央省庁関係		いばらきの土地	水・土地計画課
茨城県の生産農業所得統計 平成8年	関東農政局	地下水位観測調査 平成9年1月～12月	〃
水産物流通統計年報 平成8年	農林水産省統計情報部	地下水位観測調査報告書 資料集 昭和62～平成8年	〃
林家経済調査報告 平成8年度	〃	地下水位観測調査報告書 市町村委託観測井	〃
林業白書	林野庁	地域防災計画、茨城県 (風水害等対策計画編)	消防防災課
鉄道統計年報 平成8年度	運輸省	環境白書 平成10年度	環境政策課
都市交近年報 平成9年版	〃	茨城県における放射能調査 (第41報)	公害技術センター
陸運統計要覧 平成9年版	〃	女性施策の概要 平成10年度	女性青少年課
茨城県関係		患者調査、茨城県 平成8年度	医務課
組替予算概要説明書 平成10年度	財政課	茨城の水道	環境衛生課
県議会定例会議案 平成10年第2回 ④	〃	労働組合名簿、茨城県 平成9年	労政課
県議会定例会議案概要説明書 平成10年 第2回 ⑤	〃	技術革新へのアプローチ VoL.12	農業技術課
県議会定例会議案 平成10年 第2回 ①	〃	明日のいばらきを創る 平成10年度	監理課
県議会定例会議案概要説明書 平成10年 第2回 ③	〃	県立高等学校入学者選抜実施状況 平成10年度	高校教育課
予算に関する説明書 平成10年度 ②	〃	茨城の犯罪 1997	刑事課
いばらき地域づくり 人材データ集	地方課	人事委員会年報 平成9年度	人事委員会
市町村財政実態資料 平成9年	〃	会社、公社、団体等	
市町村等に対する助成制度の概要 平成10年度	〃	経済統計年鑑 平成9年	日本銀行調査統計局
県政白書 '97	企画調整課		

編集後記

第一勧業銀行宝くじ部がまとめた「1997年度宝くじ長者白書 (茨城県版)」によると高額当選の確率が高いのは「キャリア20年以上、50歳代で乙女座の男性会社員」か「キャリア10年以上、40歳代で水瓶・牡牛座の主婦」だそうです。

購入理由は、7割以上が「夢を持ちたいから」だそうです。不況のおり、やはり宝くじは庶民の夢ということなのでしょう。 (KM)

統計いばらき

1998.7 No.531

平成10年7月発行

編集兼発行/茨城県企画部統計課

茨城県統計協会

〒310-8555 水戸市三の丸1丁目5番38号

電話 029-221-8111(内線)2651・2652

029-221-5505(直通)

FAX 029-228-0961

印刷所/富士オフセット印刷株式会社